

アリ、此頃マデハ、通用ノ俗語ニ、古言ノ残りタルコト多シト見ユ、中右記歟、目覺ルコトヲ、晝成ト記セシト覺ヘタリ、今婦女ハ辭ニオヒンナルト云ハ、此轉語ナリ、○中略

靜曰、邯鄲ノ能ニ、盧生ガ邯鄲ノ里ニテ、旅宿セシ處ニ、仙枕アリテ、粟ノ一炊ノ間ニ、五十年ノ榮華ノ夢ヲ見テ覺ントスルトキ、狂言ノガ出テ云フ言葉ニ、イカニオ旅人、粟ノオダイガイデキ候トウ、オ晝成レヤト云ナリ、是モ古代ノ言葉ヲ傳ヘタリ、

〔九條殿遺誠〕先起稱屬星名號七遍微音○次取鏡見面次見曆知日吉凶次取楊枝向西洗手次誦佛

名、及可念尋常所尊重神社次記昨日事事多日々次服粥次梳頭三箇日一度可梳之、日々不梳、○下略

〔めのとのさうし〕あした、さのみよるからおきて、人づかひのきびしきもあしく候、又あまりあさいねひさしきも、きたなきものにて候、よきほどに御ひるなりて、御てうづさるていに御さたあり、○下略

〔身のかたみ〕十一朝、おきの事、さのみいかなる大人も、いたづらにあさふしして、おきあがりて、かほのゆくへもしらず、ほれまどひたるありさまにくし、○下略

〔宗五大草紙〕人の召仕れ候仁心得らるべき事

一若き人可被心得事、朝には早くおきて、髪をかき髪をゆひて、親の前へ出べし、

〔早雲寺殿廿一箇條〕一朝はいかにもはやく起べし、遅く起ぬれば、召仕ふ者まで由断しつかはれず、公私の用かくなり、はたしては必主君にみかぎられ申べしと、ふかくつゝ、しむべし、

一ゆふべには五ツ以前に寝しづまるべし、○中略寅の刻に起、行水拜みし、身の形儀をと、のへ、其

日の用所、妻子家來の者共に申付、扱六ツ以前に出仕申べし、古語には子にふし、寅に起よと候得ども、それは人により候、すべて寅に起て得分有べし、辰巳の刻迄臥ては、主君の出仕奉公もならず、又自分の用所をもかく、何の謂かあらん、日果むなしかるべし、